



QuizKnockと巡る江戸東京博物館展関連イベント

QuizKnock 伊沢拓司とまなぶ 江戸の歴史

2024年11月17日(日)

会場:静岡市民文化会館 中ホール 来場者数:530人

歴史を知る面白さや楽しみ方、まちづくりや経済、文化などについて学ぶトークセッション。
静岡市歴史博物館の企画展「QuizKnockと巡る江戸東京博物館展」の関連イベントとして実施した。

出演者:伊沢拓司(QuizKnock)、大石学(静岡市歴史博物館長)、鉄崎幹人(SBSラジオパーソナリティ)

主催:静岡市歴史博物館 共催:静岡市民文化会館

ユニークな切り口と語りで歴史の魅力を 伝えたSBSラジオ公開録音トークイベント

企画展「QuizKnockと巡る江戸東京博物館展」の関連事業として、「幅広い世代の人たちが静岡の歴史文化に興味を持つきっかけを作りたい」との思いから企画された、SBSラジオ公開録音イベント「QuizKnock伊沢拓司とまなぶ江戸の歴史」。11月17日の開催日当日、会場の静岡市民文化会館中ホールには、小中高生や若者、お子さま連れのご家族からお年寄りまで530人が訪れ、華やかで温かな雰囲気の中行われました。

第1部は、伊沢さんがハマる歴史の魅力と企画展について。歴史マンガをきっかけに歴史好きになったという伊沢さんが、昔の大河ドラマを例に挙げながら、「歴史は『学ぶ』というよりドラマとして最高に面白い!」など、歴史の楽しみ方を熱く語りました。司会を務めたSBSラジオパーソナリティの鉄崎幹人さんが企画展の見どころを聞くと、展示されている駕籠を紹介。「ぜひ乗ってみて、実際のサイズ感を味わってみてください」とアドバイス。江戸時代の書物もたくさん展示されており、伊沢さんからは、書かれた漢字をクイズのように解いていくという楽しみ方も提案されました。筆者も、もう一度見に行きたくくなりました。知れば知るほど江戸と今のつながりを感じる企画展だと感じました。

第2部では静岡市歴史博物館の大石学館長が加わり、企画展における江戸の暮らしと文化、江戸と駿府の文化や人的交流の比較をテーマにトークを展開。江戸幕府を開いた徳川家康が都市計画において水を重要視し、40kmも離れた多摩川から上水を引くなどの土木工事を、400年も前に成し遂げたという偉業を伝えました。また、人口増大によって火事が多発したことや、その消火方法についても触れました。伊沢さんも、「火事と喧嘩は江戸の華」「宵越しの銭は持たない」などの言葉を紹介。「暮らしぶりが言葉の文化にも影響した」と知的センスある語りで魅了しました。もちろん、クイズも出題。「江戸時代に使われていた掘り抜き井戸の深さは?」などの4問を客席に投げかけます。会場が一体となって楽しみ、最後はお二人の感想で締めくくられました。

「歴史や伝統はお金では買えないもの。文化は先祖代々が築いてきたものだから、これを世界へ発信していくことが大事だと思います」(大石館長)

「企画展では、展示物の中から平和というキーワードを見つけてみては。そして、『この平和はどうすれば作れるか?』などの問いを一つ考えるだけで学びが広がります。静岡に住む人だからこそ分かるものがあると思うので、一度と言わず、二度は行ってくださいね」(伊沢さん)

歴史好きにも聞き応えがあり、また、馴染みの薄い人には親しみやすいと感じたトークイベント。終了後、お子さま連れのお母さんに聞くと、「こどもが修学旅行で東京に行くので、江戸の予習になって良かった」と喜んでいました。隣にいた小学6年生の息子さんも、「分かりやすく歴史がもっと好きになった」とにっこり。伊沢さんのファンであり、クイズ好きということもあってご家族で来場されたそうですが、「今日教えてもらったポイントを企画展で確かめてみたい」と、歴史を通じて新たな視点を得る機会につながったようです。クイズと掛け合わせ、ユニークな切り口とした企画展関連事業の成果を感じました。

ライター:天野のりこ

